雲雀

No.156

蛙聲

勉強をやる気が起きないという生徒に対して、今を時めく予備校講師の林修氏が「嫌ならやめなさい。勉強は贅沢なのだから」と答えたことが話題になっている。世界には、勉強をしたくてもできない人がたくさんいる。勉強ができる環境にいることに感謝できないような人間が勉強をしても意味がない、ということのようだ。▼非常に腑に落ちる言葉ではあるが、一方で子どもたちがそれほどの贅沢を強要されるという特殊な環境に置かれていることに何ともいえない違和感を覚える。どれほど贅沢な料理でも、食べたくもないのに強制されて口に入れられては喉を通らない。大人としては、自分たちでその贅沢さに気づいて感謝をしつつ味わってもらいたいと思う。しかし、自分が恵まれた環境にいることはいつもそれを失ってみてから事後的にわかることである。大人たちの多くもそうであったのではないだろうか。▼ある意味で我々教員の仕事の中核は、多くの人間が事後的に持てる自身の置かれた環境への感謝の念を、今ここで持てるよう気づかせることである。その気づきがあれば、生徒は勉強も運動も遊びも、後悔なくやり切ってくれるだろう。本校の校是を眺めながら、そんなことを考えた。

時代と生きる

学校長
田部井　勇二

四四期生のみなさん、卒業おめでとう。

これから新たな道を進んで行く君たちに、今の私の思いを述べたい。

さて、先日幕を閉じた平昌オリンピックでの日本人選手の大活躍は記憶に新しいところだが、とりわけ、スピードスケート女子五〇〇m競技終了後の小平選手と李選手との光景は、今までにない感動として、誰の目にも映ったのではないだろうか。特に今回は、開幕前から韓国国内で、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との南北合同チーム問題のほか、さまざまな問題が噴出したこともあって、日本のみならず韓国においても、より一層爽やかな感動として伝えられたのであろう。

二年後の二〇二〇年には、再び東京でオリンピックが開催される。前回東京で開催された一九六四年は、大会の成功は言うまでもないが、その屋台骨を支えた首都高速道路、東海道新幹線といったインフラの大規模な整備がなされ、敗戦からわずか二〇年足らずで、先進国の仲間入りをすべく、わが国の勤勉な国民性と経済力を世界に示すことができたのだ。

その時、東京池袋で育った九歳の私の目に映ったすべての情景は、将に私にとって、夢のある明るい未来を指し示すものであった。そして、連日報道される柔道、レスリング、女子バレーボール、マラソン等々の選手たちの活躍は、少年たちのみならず、多くの国民に生きる活力を与えるものだった。

ところで、オリンピックがあった一九六四年のわが国の人口は、約九七〇〇万人で、一億人の突破は三年後の一九六七年であった。その後日本の人口は、経済成長とともにピークとなる二〇〇八年の約一億二八〇〇万人まで増え続けることになる。しかし、少子高齢化社会を迎えたわが国日本は、さまざまな問題を抱え込むことになる。因みに、二〇二〇年の人口は、約一億二四〇万人と推計され、減少するとは言え、前回の東京大会よりも約二七〇〇万人を超える人口増になる。ところが、ここには大きな問題が潜んでいる。

全人口に対して占める六五歳以上の割合は、一九六四年の六・二%の約六〇〇万人に対し、二〇二〇年では、二八・九%の約三六〇〇万人で、単純な人口増以上に六五歳以上の高齢者が増えたことになる。高度経済成長の真っ只中で見たオリンピックが、どのような変化を遂げて六五歳の高齢者となった私の目に入ってくるのかは、些か不安である。また、二〇一三年にオックスフォード大学の研究チームは、人工知能（AI）の発達によって今現在われわれが携わっている仕事の四七%が人口知能によって奪われるであろうと発表した。

明治維新という劇的な社会の変化を目にした当時の日本人と今の急速な社会変化を目にしている私たちが、全く変わらない心持でいるのではないかと考えるのは、私だけだろうか。

城西川越を巣立つ四四期生の君たちには、より一層の勢いで変化という猛烈な波が打ち寄せてくるだろう。それには、受験勉強で身につけた知力だけでは、到底太刀打ちできないであろう。そこでは、状況を見据えた分析力、判断力、そして知力に裏付けられた探究心を備えた実行力が必要になってくる。さらに、正義を貫く強靭な心と人を労わることのできる豊かな心を備えることができれば鬼に金棒だ。城西川越で学んだすべてが、それらの源になるのだ。

人は生ある限り学ばなければならない。学ばない者に未来はない。学ぶということは、どういうことか。今一度考えよ。日本の未来を切り開き、日本を背負っていくのは君たちだ。卒業おめでとう。

問題とともに生きる

高校3年学年主任
渡辺　聡

高校生活はどのようなものでしたか。果敢にチャレンジした悔いのないものだったでしょうか。学業と部活動の両立の問題、友人関係の問題など、様々な問題に直面し、思い悩んだ三年間だったかもしれません。問題を解決できずに、卒業後に持ち越した人もいるでしょう。さて今、受験は終盤に差し掛かったところです。新味の良問、厳しい難問、色々な入試問題との長い闘いを終え、ほっとしている人もいるかもしれません。まだまだ勝負はこれからという人もいるでしょう。国立後期試験は今が正念場です。集中力を維持して、最後の最後まで粘り強く頑張って下さい。

「私は神のパズルを解きたい」と言ったのはアインシュタインですが、人間は様々な問題を解き、同時にまた、多くの問題をつくり出してきました。問題解決のため、人間の英知を結集した人工知能もまた、人知を超えてしまうのではないかという不安と人間はどうあるべきかという問いをつくり出しました。発達した情報網と技術、自由な思考、多様な価値観など、人間が望んだものの先にも、数々の問題が生まれています。人間の営みがある限り、問題は存在するのでしょう。「近頃の若い者は、」という嘆きが、古代エジプトの壁画にも書いてあったという冗談がありますが、「近頃の世の中は問題だらけで、」という憂いもまた、そこにあったに違いありません。

皆さんが、晴れて大学生になり、社会人になったときも、大小様々な問題と格闘していると思います。正解が分からずに立ち止まることもあるでしょう。「解なし」が唯一の正解であることも。それでも、自分なりの「解」を探し、一歩ずつ進んで行って下さい。「解」は、単純に正解と不正解に二分されているのではなく、その間に不完全だけれども魅力的な、予想外のものが無数に存在しているはずです。問題に対して、先入観を持たず、面白さと楽しさを見つけ、意欲を持続させていって下さい。そのことが、問題を解くときに、決定的に大事なことです。くれぐれも健康第一で。さらに逞しくなっている皆さんと会える日を楽しみにしています。卒業おめでとう。

卒業おめでとう
―卒業生へ贈ることば―

学年副主任
A組担任
田口　智一

格好いい男になってほしい。君達への思いはそのことに尽きます。大きな志を抱き、真っ直ぐに進んで行こう。どんな困難にも、勇気を持って踏み出そう。厳しい逆境でも、嘆くことなく笑顔で未来を語ろう。そんな姿に誰もが憧れ、みんなが背中を押してくれるはずだから。君達に再び会えることを楽しみにしています。

B組担任
渡辺　文浩

「幾何学に王道なし」これは古代ギリシアの数学者エウクレイデス（ユークリッド）が簡単に幾何学を理解したがる王様に対して言った言葉です。これからの長い人生の中で多くの問題にぶつかると思いますが、その問題は簡単には解決できないものです。王様でも庶民でも等しく努力しなければなりません。そこで皆さんにこの言葉を贈ります。「人生に王道なし！！」

C組担任
土谷　聖

「磨穿鉄硯」卒業生の皆さんには、この言葉を送りたいと思います。この先、希望もありますが、苦難の連続だと思います。この言葉には、強い意志を持ち続け、物事を達成するまで変えないこと、学問にたゆまず励む意味があります。硯に穴があくまでとはなりませんが、これからも鉛筆やペンが足りなくなるまで学問に励んでください。

D組担任
丸山　唯

卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。希望の進路に進む人、そうでない人様々だと思います。私は認識の仕方で同じ事象でも別の解釈ができると考えています。望まないことが起きた場合、『人生の糧にしよう』といった認識するかそうでないかです。認識次第で過去は変えられます。今後の人生を前向きに捉えて下さい。

E組担任
川畑　彩

「肝心なことは、世間の眼よりも何よりも、君自身がまず、人間の立派さがどこにあるか、それを本当に君の魂で知ることだ。」（吉野源三郎氏）大切なのは、何よりも自分自身が深く感動し、心を動かされる経験を積むことです。そうすることで自信がつき、自分らしい生き方を見つけることができるでしょう。卒業、おめでとう。

F組担任
土居　耕三

卒業おめでとうございます。希望する大学に合格した人、浪人を選んだ人それぞれだと思います。そのような皆さんにお伝えしたいことは、「今のうれしい状態や、落胆した気持ちが、これから先もずっと続くわけではない」ということです。ここからがまたスタートです。周りの人に喜んでもらえるような存在、大人になってください。

G組担任
山﨑　淳平

「自分の人生は、他人が決める」

私が考える人生観です。どんな人生の選択にも、自分以外の〝人〟から様々な影響を受けています。反対に考えると、君たち自身もそのように他人の人生を決める存在と言えるのです。どうか、影響力のある素晴らしい〝人〟になってください。

H組担任
加沼　成美

ご卒業おめでとうございます。

この先君たちは、より自由で、価値観が多様化した社会を生きる事になります。こうした社会で、幸せになる為の判断基準として大切にして欲しいのが、「自分自身」です。大学で得る様々な経験も、良く生きるための判断材料となるはずです。生き生きとした、魅力的で素敵な男性になって下さい。

副担任
山﨑　俊一

二十ヶ年の成果が実り希望する大学に進学する者、思うような結果が出ず再度挑戦する者など各人進むべき道はそれぞれではあると思いますが、大きな夢と希望を持って自分の人生を切り拓いていって下さい。受験を通して得た知識と経験は、今後様々な面で役立つと思います。皆さんの活躍と成功を心より願っています。

副担任
高木　太郎

高校三年生の皆さん卒業おめでとう。これから船出していく世界は楽しいことだけではないと思います。どんな逆境にあっても、君たちを助けてくれる人は必ずいます。そういう人達を大切にし、感謝の気持ちを常に持っていてほしいです。もちろん我々城西川越の教員も君たちの味方です。いつでも訪ねて来てください。

副担任
星　遼人

卒業おめでとうございます。自分らしさを大切に新しいスタートに向かって胸を張って進んでください。

今まで以上に楽しいことも努力しないといけないこともあると思います。しかし、高校生のときに勉強や部活を頑張った経験はきっと今後の人生でも活かされてきます。

これからも全力で様々なことに取り組んでいってください。

各賞受賞者

高校

日本私立中学高等学校連合会長賞

3年C組
橋本　拓実

一年次から生徒会役員として、精力的に活動した。二年次には生徒会長となり、生徒会活動の活性化と、地域貢献に尽力した。また、和太鼓「欅」に所属し、埼玉県代表として平成二十八年度第四十回全国高等学校総合文化祭広島大会郷土芸能部門に出場するなど、各大会において活躍した。

埼玉県私立中学高等学校協会長賞

3年G組
池田　俊介

一年次から二年次まで文化祭実行委員を務めた。二年次には実行委員長として、積み上げた経験を存分に活かして、実行委員間や他の参加団体との連携を大切にし、文化祭の成功に大きく寄与した。ここで見せたリーダーシップは後輩実行委員にも多大な影響を与えた。

埼玉県私立小学校中学高等学校保護者会連合会「優秀生徒表彰」

3年G組
小林　隼人

和太鼓「欅」の長（おさ）として、類い稀なリーダーシップを発揮し、同団体を平成二十八年度第四十回全国高等学校総合文化祭広島大会郷土芸能部門への出場に導いた。また、「地域貢献」を掲げ、年間三十回の公演を行うなど、精力的に活動した。

埼玉県体育協会賞

3年A組
多田　旭志

ハンドボール部の主将として、また中心選手として、チームを埼玉県新人大会西部地区予選準優勝、全国高校総体埼玉県予選ベスト16に導いた。その活躍が認められ、西部地区選抜チームの一員として、埼玉県ハンドボールフェスティバルにも参加し、大いに活躍した。

川越市体育協会体育賞

3年G組
友利　匠吾

ラグビー部に所属し、一年次よりチームの主力選手として活躍し、二年次にはチーム史上初の県大会ベスト8に大きく貢献した。三年次にはキャプテンとしてチームをまとめ、けん引した。また、西部地区選抜選手として、四地区対抗戦に出場した。実直にプレーする姿は他の選手の模範となった。

3年H組
星　遼河

テニス部に所属し、一年次よりチームの主力選手として活躍し、二年次新人戦では県大会団体戦でベスト16に入った。個人戦ではシングルス、ダブルスともに二年次より県大会に出場し続けた。三年次には部長として部員をよくまとめ、率先して練習に取り組み、他の部員の模範となった。

埼玉県高等学校文化連盟賞

3年H組
門脇　一史

美術部員として多くの美術展で高く評価される作品を制作した。また、文化祭では華やかなポスターやダイナミックな装飾を、体育祭では見事な応援旗を作成し、観る者を魅了した。常に作品と真摯に向き合い、努力を怠らない姿勢は他の美術部員の模範になった。

3年H組
北村　徳郎

四十名以上の個性溢れる美術部員をよくまとめ、部の躍進を支えた。後輩への技術指導にも熱心に取り組み、信頼も厚い。自身の技術習得・表現の模索にとどまらず、未知の部門に果敢に挑戦する姿はまさに表現者のそれであり、他の部員の模範になった。

優等賞

3年A組
崎　裕登

3年H組
吉澤　蘭

精励賞

3年A組
田中　伸ノ助

3年H組
橋本　薫汰

卒業おめでとう
―卒業生へ贈ることば―

中学3年学年主任
伊藤　修

卒業おめでとうございます。

中学での三年間、多くの者が充実した時間を過ごせたのではないでしょうか。学習面では、確実に前進しています。クラブ活動で優秀な成績を修めた者もいます。欅祭では、年を追うごとに規模は大きくなり、内容も充実していきました。

四月から高校生になります。城西川越学園での生活も後半に入ります。ここからの三年間の過ごし方が君たちの人生に大きな影響を与えるでしょう。同じ場所に通い、顔見知りの教員の授業を受けるかもしれませんが、今まで以上に何事に対しても前向きに取り組んでください。

これまでの三年間、君たちと同じ時間を過ごせたことをうれしく思っています。三年後、笑顔で高校を卒業する君たちを送りたいと切に願います。

1組担任
並木　大典

この三年間、私と君たちは勉強にクラブに目まぐるしい日々を過ごしてきました。その中で、いつしか自分を見失い、周囲の期待に応えるべく理想像を追い求めていたように思います。うまくいかないからつまらないのか、目標に届かないから嫌になっているのか。努力が実らないことも、不公平なことも世の中には多くあり、それが君たちのこれから生きていく社会というものです。それを恨んでも、憎んでも何も変わりません。変えることができるのは自分だけ。せっかくやるのであれば楽しくやった方がいいに決まっている。前を向いて自分らしく、胸を張っていって欲しい。君たちは私の自慢の生徒たちだ。卒業おめでとう。

2組担任
橋本　大海

卒業おめでとう。入学したころ、制服を着ることもままならなかった君たちが、勉強やクラブ活動に全力で取り組み、立派な男に成長していく姿を見て、物事に対しひたむきに取り組むことの大切さを改めて感じました。

君たちはこれから、高校に進学し、これまで以上に忙しい日々を送ることになります。それでも、私たちと過ごした三年間のように、何事にも手を抜かず、全力でぶつかっていって欲しい。君たちならそれが出来ると私は信じています。

3組担任
藤井　智希

本校に入学した当初、「小学校ではあれが苦手だったけど、出来るようになりたい」、「小学校ではこのことで怒られてばかりだったから、怒られないようにしよう」などといった目標は、誰しもあったと思います。実現しましたか。

小学校と聞くと遠い昔に感じるように、今からまた三年後、今度は中学校時代を懐かしく思うことでしょう。私たちは時の流れの「速さ」に抗うことはできない。だからこそ、今日を安寧に過ごせることを当たり前と思わず、大事に生きてください。応援しています。

副担任
小西　徹

卒業おめでとうございます。

中学三年間で学び、経験したことを高校生活で活かしてください。

高校生活は、自分の可能性を広げるための三年間です。自分の可能性の限界を簡単に決めるのではなく、様々なことにチャレンジしてください。きっと、成功よりも失敗することのほうが多くなると思いますが、本気で取り組んだ失敗には価値があります。必ず、次のチャレンジへのエネルギーになります。三年後、さらに成長した皆さんに会えるのを楽しみにしています。

副担任
松岡　由晃

“commencement”という英単語は「卒業」を意味するのと同時に、「始まり」を意味します。中学校卒業を迎えた今、もうすでに高校生活が始まろうとしています。

悩み、傷つき、失敗し、それらを乗り越えることで成長していくということを、この三年間で学んできました。これからも多くの壁が立ちはだかると思いますが、それらを乗り越える力を、君たちは確かに持っています。自らに誇りを持って進んでほしいと思います。

君たちの新たな「始まり」を嬉しく思います。「卒業」おめでとう。

各賞受賞者

中学

優等賞

3年1組
東海林　奨

努力賞

3年1組
小笠原　勇斗

3年1組
井上　匠規

日本私立中学高等学校連合会長賞

3年1組
小川　雄大

生徒会長として、生徒会活動を通じて地域に貢献するとともに、学校行事を一層充実したものにしようと一生懸命努力した。また、入学当初から勉学に真摯に取り組み、常に優秀な成績を修め、まさに他の生徒の模範となる姿勢を示した。

埼玉県私立中学高等学校協会長賞

3年3組
成田　匡毅

三年間を通し、誰よりも早く登校し自主学習に励み、定期試験で優秀な成績を修めた。また、卓球部部長として常に質の高い練習を求め、部員をまとめ上げた。三年次には生徒会本部役員（書記）としても活躍し、全校生徒の代表として学校を活気づかせた。

埼玉県私立小中高等学校保護者会連合会賞

3年1組
東海林　奨

三年間、学業において常に、他の模範となる優秀な成績を修めた。向学心に燃え、「平成二十九年度城西川越英語スピーチコンテスト中学の部」における最優秀賞受賞をはじめ、数学検定準一級合格、世界数学、数学ジュニアオリンピックへの参加など、多岐に渡る活躍をみせた。

埼玉県体育協会賞

3年2組
中村　隼人

ラグビー部のキャプテン、また中心選手として多岐に渡って活躍した。チームは創部以来の念願であった平成二十九年度関東中学校大会Aブロックおよび東日本中学校大会出場という輝かしい成績を残した。さらに個人としても埼玉県選抜のAチームにて活躍し、平成二十九年度埼玉県中学校優秀選手に選ばれた。

川越市体育協会体育賞

3年1組
山口　拓郎

テニス部のキャプテン、また中心選手として活躍した。平成二十八年度関東新人大会埼玉県予選会ではベスト8に進出し、全国私立中学校テニス選手権への出場を果たした。下級生からの信頼も厚く、熱心に指導にあたっていた。

3年3組
石渡　倭

ラグビー部の副キャプテンとしてチームを支え、創部以来初となる平成二十九年度関東中学校大会Aブロックおよび東日本中学校大会出場の快挙を成し遂げた。また、個人としても埼玉県選抜のBチームにて活躍し、平成二十九年度埼玉県中学校優秀選手に選ばれた。

皆勤賞（七名）

佐藤孝佳
野崎颯太
山口拓郎
池永壮吾
寺本貴広
中村隼人
逸見悠斗

精勤賞（十名）

石井啓太
小笠原勇斗
小川雄大
小林健冬
澤章真
東海林奨
岩田恒併
澤田将汰
髙橋蒼
成田匡毅

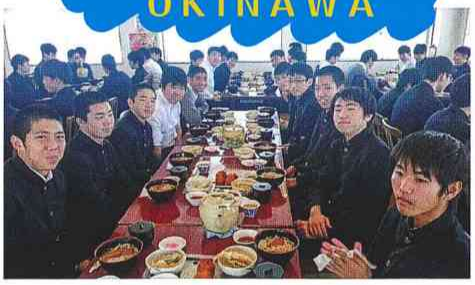
皆勤賞

石崎　新望・岩崎　宗将・菅谷　渉太
多田　旭志・宮澤龍之介・池田　和弥
重盛　龍太・鈴木蛍太郎・関谷　雄太
赤石　喬弘・足田　寛幸・及川　将史
大島　光智・戸口翔太郎・橋本　拓実
山本　圭佑・加藤　優斗・藤井　祐介
藤枝　熙・澤田　蒼・森田　健寛
飯澤　理久・橋本　涼佑・原　汰一
安藤　斗真・沼田　悠・池田　悠人
大野　将輝・齊藤　拓未・庄司　敦哉
星　遼河・吉澤　蘭（三十二名）

精勤賞

阿久津永和・池田　将馬・石西　真大
入子　睦史・岩崎　智也・小原　有貴
栗田　海音・崎　裕登・髙橋　修平
田中伸ノ助・中村　駿介・野田　悠太
秦　紘平・星野　優歩・松岡　一樹
松本　和樹・茗荷　英史・森下　仁
吉松　暢彦・大野　貴寛・小林　亮太
重松　慧・田中　恭輔・村岡　拓弥
島倉　秀典・清水　一輝・鈴木　麟
竹本　博紀・千葉　隆裕・檜山　将史
藤吉隼太郎・岩淵　秀太・菊田　航也
菅谷　昂平・寺井　哲也・中澤　秀道
松谷　一輝・山城　伶王・今村　敦哉
桑原光太郎・斉藤　大地・菅沼　秀之
髙橋　一真・手塚　涼・森　遼介
吉岡　秀・池田　良輔・市ノ川和輝
今泉　有稀・大田　真実・小川　智也
菅野　隼・小島　雄哉・斎藤　毅
佐久間涼太・鈴木　優太・髙荷　遼太
池田　俊介・碓井　柊平・大坂　諒
小林　隼人・舟山　晃陽・宮下　剛
山﨑　啓太・岩渕　哲平・大塚　雄太
岡野　慎・河内　励・木林　孝輔
榊原　康太・清水　雄太・白川　涼太
鈴木　良季・瀧澤　拓人・山下　大輔（七十五名）

高校修学旅行 OKINAWA



凍えるような寒さの東京を発ち、三時間余り。沖縄の暖かさに安堵しました。そして、これから修学旅行が始まるのだと実感しました。

一日目の中山きく先生の講演を聞いた時、過去にそのような凄惨な出来事が現実としてあったことを知り、恐怖と深い悲しみの感情を抱きました。

さらに、二日目のガマ体験では、戦時中の生き地獄のようなその場の惨状を案内の方から聞き、とても心が痛みました。もし、自分がその時代にその場にいたなら、怪我をして動けなかったら、青酸カリを渡されたなら…。当時の人たちの気持ちを考えるとた

２年Ａ組
大西　捷

だ辛かったです。珊瑚が綺麗で自然豊かなこの島にそのような歴史があったことに驚きもしました。

「戦争は破壊と絶望しか生まない」中山先生のこの言葉が強く心に残りました。二度と戦争を繰り返してはならない、そう僕も思います。

この修学旅行では、沖縄の歴史を知り、いろいろなことを学ぶことができました。

前半二日間に行った平和学習は私にとって良い経験となった。沖縄に着いてすぐに中山きく先生の講演を聞いた。そこで白梅学徒隊やその他の学徒隊のことを知り、戦争の本当の恐ろしさを感じた。

２年Ｅ組
岡安　涼生

二日目にはガマに入った。ガマの中は、水滴が落ちる音と小さな川の流れる音がするだけだった。戦時中には、暗闇の中に兵士たちの叫び声だけが響いていたという。その暗闇は私が今まで見た中で一番濃い黒色に思えた。

後半の二日間は、現在の沖縄を楽しむことができた。アメリカンビレッジでご飯を食べ、首里城を見学し、国際通りでたくさんのお土産を買った。どこに行っても多くの観光客で賑わっていた。

ここまで来るのにどれほどの苦労があったのだろうか。沖縄の人たちがとても立派に、とても逞しく見えた。

今回の修学旅行では平和学習が主な目的だったが、負の歴史を知ることにより、それを乗り越えた現在の沖縄の素晴らしさを実感することができた。

執筆活動、評価される！

本校国語科教諭舛田智哉先生、二年Ｆ組加藤順也君の書いた小説が、いずれも高い評価を受けた。

舛田先生の作品は昨年に引き続き、川越市が刊行する文芸作品集「文芸川越」に掲載され、加藤君の作品は川越市高校生小説大賞において優秀賞に選出された。

左：舛田先生　右：加藤君

国語科教諭　舛田　智哉

書くという行為を通してしか感じられない世界があるような気がします。書いている最中は何をどう書くのかに悩み苦しみますが、今後もその問いから逃げずに地道に頑張ります。小説執筆に興味のある生徒はぜひ声をかけてください。

高校生小説大賞　優秀賞

二年Ｆ組　加藤　順也

受賞の報を受け、まず驚きました。普段から読書の量が特別に多いわけではないため、創作するのはとても大変なことで苦労しましたが、その分、喜びも大きなものになりました。また小説を書く機会があれば、長編に挑戦します。

ターム留学

中3レポート

3年1組　井上　匠規

羽田空港を旅立ち、飛行機に乗ること約10時間。少し不安はあるものの、新しい世界への旅立ちに希望を抱いている自分がいた。あの日から始まった38日間の短期留学。この留学で私が感じたことを書こうと思う。

まず日本との大きな差は人々、雰囲気共に解放的だということだ。ある休日に街に出かけたのだが、ふと周りよりも足早な自分に気づく。ゆっくりと歩いてみると、周りの景色や感じることが、全く違ってくる。人々も細かいことを気にしないで、大らかに生きている。身近なところに新たな発見がある。当たり前だが、見るもの聞くものすべてが新しいのだ。

アデレードで5週間過ごしているうちに、自分の中に新たな常識がたくさん生まれた。14年間、日本という一つの小さな国で生きてきた私にとっては、ほんの細かいことにも大きな衝撃があったし、私の中に存在していた常識が、次々と塗り替えられていった。

この留学で学んだこと、感じたことは到底ここに収まらないほどあるが、15歳の自分にとって何にも代え難い5週間であったことは確かである。

3年1組　大橋　健太

私は人見知りだ。そのため、今回の留学は非常に不安だった。拙い英語、ホストとのコミュニケーション、食生活など。

しかし、いざ生活をはじめると、ホストやコーディネーターの方々の支えのおかげですぐに慣れることができ、いいスタートが切れた。もちろん、微妙な時差、湿度や気温などは違うので苦しめられたこともあった。そんな中始まった現地校での生活は今までにない刺激的なものだった。すべてが英語の授業、授業の形式など、日本と違う点をあげればきりが無い。バディやクラスメイト、他の留学生と仲良く出来るか、変な生徒に絡まれたりしないかなどの不安はあったが、学校全体が留学生への受け入れ体制が非常に良く、困ったことがあればすぐに動いてくれたり、悩んでいる様子を見れば、相談に乗ってもらうことができ、安心して生活が送れた。

また、文化の違いについてだが、多くのことに驚かされた。例えば、街中にタトゥーを施している人が多くいる。これはファッションなのである。市街に出てみるとチャイナタウンがあり、様々な国の人たちが自分たちの国に誇りを持ち生活している。オーストラリアは多民族国家なのだ。また、電車の中に自転車をそのまま持ち込めるなど、電車もかなり日本と差異があったが、街中を走るトラムの便利さには驚愕した。無料で移動できる区間があったり、格安でアデレード中を回れたり、日本よりも便利なシステムが多々あった。街中でシャツを脱いでいる人、裸足で歩き回る人、様々な人がいて外国故の自由度が感じられる。日本という国に生まれて、日本しか知らなかった自分が広がっていくことを実感した。次第にその自由な国の雰囲気に任せて、積極的にコミュニケーションをとろうと努力できる自分がいた。会話が成立せずに悔しい思いもしたが、それを活かして英語の力を伸ばしたいと思えた最高の留学だった。

3年1組　山口　拓郎

私達はオーストラリアに向けて出発した。今回の旅は5週間。この期間いたからといって英語の能力が飛躍的に向上するとは思えない。それでは何をしに行くのか。私の場合、英語が話せなくても聞き取れなくても相手に伝える、ということを練習しに行く。そのために私はできるだけ多くの人と話をしようと思った。

早速私は飛行機の中で隣に座っていた外国の方と話をした。その後も多くの方と話をした。確かに、英語を聞き取るのは難しかったが、違う言語の人との会話はとても楽しかった。

このままの勢いで現地の学校に入ろうと思った。しかし、クラスメイトや留学生が皆英語を流暢に話すことに圧倒され、私は自信を無くしてしまった。何もできないまま、友達ができないまま絶望の日々を過ごしていた。

ある日、私はこのまま何もしないで帰るくらいだったら当たって砕けたほうがいいと思った。現地のある生徒がサッカーを好きだというので、私は勇気を絞って一緒にサッカーをやらないかと誘った。誘いはうまくいき学校が始まって3週目の火曜日、ついに現地の子達と一緒にサッカーをした。

しかし、一つ問題が起こった。そのサッカーをしたことで、彼と仲良くなりすぎてしまった。会話の中で「いつ帰るの」と聞かれ「あと1週間と少し」と答えたら「寂しい」と言われた。私も同じだ。彼と話をしていると、私の心のどこかで「あと少しで帰ってしまうのに」という時間に対する焦りだけがあった。今、私はこの短い期間でオーストラリアへ来たことを後悔している。もっと長い期間でアデレードという地に足を運びたかった。

イングリッシュウィーク

3年2組　菊池　泰成

English Week 当日、どんな講師の方々だろうと緊張していた。班ごとに分かれ、講師の方との会話が始まった。私たちはジェスチャーを駆使し、必死になって講師の方と接しようと努力した。その努力のかいもあり、昼食時には講師の方と、自分の家族構成などについて楽しく会話することができた。

同じ班の友人と、もっと元気よく話そう、色々なことを聞いてみよう、と1日の目標を決めた。その取り組みによって、1日の間で静かになる時間がないほど講師の方との会話が弾んだ。また、最終日には全員が English Week の集大成として、講師の方とのやり取りを通して学んだことをもとに一生懸命準備をして、発表した。

私はこの English Week を通して、コミュニケーションの難しさや、自身の意思が伝わったときの楽しさを学ぶことができた。

中学スキー教室

2年2組
小郷　和嗣

スキー教室に行く前は、あまり行く気になれませんでしたが、初日にその不安は消え、少しでも早くゲレンデに出て滑りたいと思いました。そして、日に日に上達することができました。二日目には初日にできなかったことを練習したり、かなり高いところまで行ったりしました。初日にはできなかったハの字で進むことや、止まることができるようになりました。ストックを持たずにバランスをとるのは難しかったです。インストラクターさんと、上級者コースを滑ったときは少し怖かったです。雪が柔らかかったので、転倒したら雪に飲み込まれてしまいそうなコースでした。それでも頑張ってみんなに追いつこうと進んで行きました。自分のペースで進んで行ったら、下まで無事に降りることができました。

三日目の自由滑走では、一つのリフトにしか乗れませんでしたが、霧も濃く、他校の生徒も大勢いて難易度は変わっていました。少しでも間違いがあったらぶつかってしまうと思いながら慎重に滑りました。自由滑走は上手くいって、一度も転倒せずに終えることができました。

初日の自分よりも二日目の自分の方が格段と上手になっていたので、スキー教室に行った甲斐があって良かったです。次にスキー教室に行けるのは高校生になってからです。今回スキーがおもしろいと思えたので、今から楽しみにしています。

2年3組
細見　大地

このスキー教室で僕はいろいろな経験をすることができました。

初日はスキー靴の履き方、板の付け方、登り方などスキーの基本的な部分からインストラクターさんに教えてもらいました。スキーをする前は、難なく簡単にできるものだろうと思っていましたが、実際に体験してみるとなかなか上手く滑走できなかったり、止まりたいときに上手くブレーキをかけられなかったりしてとても難しかったです。初日は一日中これらの動きを練習していました。僕は、スキーは意外と奥の深いスポーツなのだなと実感しました。

二日目からは初日よりもずっと長いコースを滑走しました。何となくですがコツをつかみ、初日よりも上手に滑走できたと思います。カーブを曲がる際に、片方に十分な重心をかけられず、曲がりきることができずに何度も転倒してしまいました。しかし何度か練習していくうちに、少しずつ上達して最後には上手く曲がれるようになりました。

三日目は自由滑走をしました。その日は少し霧が濃くて、前があまり見えませんでしたが、事故なく安全に滑走できたので良かったです。自由滑走はとても楽しかったです。このスキー教室で、三日間学年の友人と一緒に生活をしました。人それぞれ別のことを思考し、僕の価値観とは異なった価値観を持っているので、意思の共有が難しい部分もありましたが、そういう経験で少し僕も成長できたのかなと思います。この三日間たいへん良い経験ができました。

WHAT WE STUDY FOR

ノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章先生が、去年ウエスタ川越で講演会を行った。失礼ながら物理学とは無縁そうな年配の方も多く聴きに来ていた。恐らく母校の東松山市立南中学校や川越高等学校の同級生が駆けつけてきたのだろう。そういった面からも梶田先生の人となりを感じられる。さて、梶田先生は、ある現象の観測で思い通りのデータがまったく得られなかったらしい。1年間もの歳月を経てプログラムミスなどのチェックをしたが、やはり思い通りの結果にはならなかった。それはすなわち、当時における物理学の理論では説明しえない現象に直面していたということである。のちにそれは今日でいうニュートリノ振動と呼ばれる現象であることが、スーパーカミオカンデという素粒子観測装置を用いて初めて立証された。ノーベル物理学賞のきっかけになった出来事である。

講演の中で興味深かかったのは「幸運にも」、「たまたま」、「偶然」、「出逢い」といった必然性のない偶発的な意味合いのキーワードがよく出てきたことである。これをそのままの意味で解釈すれば、梶田先生は強運の持ち主であると考えてしまうところだが、実際はそういうわけではないと思う。本当に運の良い人が1年間もプログラムミスを探し続けるであろうか。私は梶田先生に自然科学に対する洗練された知識や、研究に対する不屈の精神、極めて高い人徳などがあったからこそ、巡り巡ってきた「つき」をいち早く察知し、それを引き出すことができたのではないかと思うのだ。もしそれらが不十分な状態では、せっかく巡ってきた「つき」に気付きもせずに、千載一遇のチャンスをみすみす逃してしまうことだろう。運を消費するにもただでは叶わないということだ。無から運は発生せず、因縁によって姿を表すともいえる。

私は修士論文のネタを仕上げるのに、取り掛かり始めて2週間でかたがついてしまった。たまたま未開拓の分野に足を踏み込み、目に止まったある単元を掘り下げようとしたら呆気なく解決してしまったのだ。このとき、私は運が良かったと思った。しかし、なぜその分野を開拓しようと思ったのかなどを考えれば、それ以前における研究室の選択などに運が芽生える兆候はあったように思えた。なにより、私は大学および大学院における6年間、勉強を怠ったとは考えていないし、努力は人一倍し続けたという自負がある。そしてそれらが修士論文に集約され固形化したものと考えているのだ。ボクシング漫画『はじめの一歩』に登場する主人公のトレーナーは「自信を持ってリングに上がれ　最後はキサマが積み上げたモノが拳に宿る!!」というセリフを残している。私と同年代の層に親しまれていると思う。また別のトレーナーは「ボクシングにラッキーパンチはない　結果的に偶然当たったパンチにせよそれは…練習で何百何千と振った拳だ　その拳は生きているのだ　試合を投げて適当に振ったパンチなど決して当たらん」という至言も残している。言葉は異なれど、主張したいことは同一のものだ。

なぜ勉強する必要があるのかという問題に対する私なりの答えの一つが「チャンスに気付き、それを逃さないため」である。たとえ今学んでいる知識が将来役立ちそうにないと思っても、本当に役に立たないことを証明することは可能であろうか。断片だけでもいい。過去にこんなことを学んだ気がする。その程度のものでも将来新たな道を拓くための取っ掛かりが掴めるかもしれない。社会人になり仕事が忙しくなると学ぶ時間も意欲もなくなってくる。若いうちにどれだけ下地を構築できるかが勝負だ。

数学科　西野明穂

高校スキー教室

1年E組
長谷部　晶寛

私のスキーの経験は、それまでたったの三日というとても短いものだった。志賀高原に着いた時に最も心配していたのは、経験の浅さで班員のみんなに迷惑をかけてしまうのではないかという事だった。その不安は的中し、何度も転んでしまっていたが、日が過ぎるにつれ、ほんの少しずつではあったが転ぶ回数は減っていった。そして最終日の自由滑走では、初日に比べ転ぶ回数も半分程に減った。私は自身の力に驚いた。なぜなら、私は最初の滑走では、ハの字で止まることしかできなかったが、ほんの三日間練習しただけで、スキー板を平行にして曲がるパラレルターンもできるようになっていたからだ。

もう一つ驚いたことがある。それは、中学生のスキー教室でも同じ班だった友達が、全く転ばずに滑走していたことだ。中学生の時は私は彼に比べると上手く滑れていたと思っていたが、その彼は私より断然上手になっていた。私は今回のスキー教室に参加してとても楽しかったので、機会があればまたスキーをしたいと思った。

1年H組
一條　顕恒

いきなり先生とにらめっこ。理由は単純で、朝の集合時間に遅れたからだ。少し前に先生と生活習慣について話をしたばかりだった。それでこの有り様かよ、と正直に心の中で自分に呆れていた。クラス全体で、楽しいスキー教室にしようという流れができていたにも拘らず、私がその流れを止めてしまった。そう思いながらのスキー教室だった。

実際、スキー教室は楽しかった。私が遅刻したということを忘れてしまうくらいに。それが自分で忘れようと思って忘れたのか、ただ忘れてしまったのか、今ではわからない。いずれにせよ、これが私の弱点だと思う。バスや旅館で友人と話すことができ、未経験であったスキーが多少滑れるようになった今回のスキー教室は、私に良い時間を作ってくれたように感じた。そんなスキー教室に行くためにお金を出してくれた両親に感謝しながら、自分自身を見直しつつ、周りに迷惑をかけない程度のペースでこれからの日々を過ごしていきたい。

指定校推薦入試合格者

文系

☆青山学院大学 経営学部　二好　貫太
☆青山学院大学 法学部　木林　孝輔
☆学習院大学 文学部　庄司　敦哉
☆学習院大学 法学部　齊藤　拓未
☆慶應義塾大学 商学部　橋本　薫汰
☆国学院大学 文学部　榊原　康太
☆城西大学 経済学部　嶺崎健太郎
☆城西大学 現代政策学部　大福　北斗
☆城西大学 現代政策学部　光山　慧祐
☆城西大学 現代政策学部　斉藤　大地
☆城西大学 現代政策学部　渡邊　凌
☆中央大学 商学部　甲斐　照大
☆中央大学 法学部　星　遼河
☆東京経済大学 現代法学部　江連　祐汰
☆日本大学 経済学部　吉岡　秀
☆法政大学 経済学部　髙荷　遼太
☆武蔵大学 経済学部　今村　敦哉
☆明治大学 政治経済学部　小林　悠人
☆立教大学 経済学部　岩渕　哲平
☆早稲田大学 法学部　吉澤　蘭

理系

☆青山学院大学 理工学部　小林　慎也
☆学習院大学 理学部　岩淵　秀太
☆学習院大学 理学部　大塚　広夢
☆学習院大学 理学部　村岡　拓弥
☆埼玉医科大学 保健医療学部　奥村　健太
☆芝浦工業大学 工学部　加藤　大暉
☆芝浦工業大学 システム理工学部　小林　亮太
☆城西大学 理学部　中澤　秀道
☆中央大学 理工学部　赤石　喬弘
☆中央大学 理工学部　鈴木　麟
☆東京電機大学 システムデザイン工学部　八木　翔太
☆東京電機大学 理工学部　重松　慧
☆東京電機大学 理工学部　重盛　龍太
☆東京都市大学 工学部　千葉　隆裕
☆東京都市大学 工学部　橋本　拓実
☆東京理科大学 理工学部　竹本　博紀
☆日本大学 理工学部　足田　寛幸
☆日本大学 理工学部　鈴木蛍太郎
☆日本大学 理工学部　藤枝　熙
☆明治大学 総合数理学部　山城　伶王
☆明治薬科大学 薬学部　田中　恭輔
☆立教大学 理学部　山本　圭佑
☆立教大学 理学部　大柴　駿平
☆早稲田大学 基幹理工学部　丸山　達也

春休み中の事務取扱い

春休み中の事務取扱いは次の通り。

▼期間　3月24日(土)～4月4日(水)（日曜日を除く）
▼時間　午前8時30分～午後4時00分

この期間中、証明書の発行申請は3月31日(土)までとし、当日発行する。

今後の予定

3月11日(日)　中学入学予定者登校、高校入学予定者クラス編成試験
14日(水)　期末特別授業（～17日(土)）
19日(月)　中学第24回卒業式
23日(金)　終業式
4月5日(木)　クラス発表、始業式
6日(金)　中学第27回入学式
高校第47回入学式
9日(月)　高校一年オリエンテーション旅行（～11日(水)）
21日(土)　中学一年・高校一年第一回保護者会

城西川越広報「ひばり」第一五六号
編集・発行
城西川越広報編集委員会
〒三五〇―〇八二二
埼玉県川越市山田東町一〇四一
☎〇四九（二二四）五六六五